

平成23年度

事前評価結果

平成23年12月

広島県研究開発評価委員会

目 次

1 評価対象及び評価基準・総合判定基準	1
(1) 評価基準	1
(2) 総合判定	2
2 評価結果	2
(1) ランキング	2
(2) ポートフォリオ	3
3 評価委員会意見（総合判定）	4
課題別事前評価結果	5
【参考資料】	
1 広島県研究開発評価委員会設置要綱	14
2 広島県研究開発評価委員会ワーキングスタッフ名簿	15
3 経 緯	16

1 評価対象及び評価基準・総合判定

県立総合技術研究所が平成24年度から新たに実施予定の次の研究課題について、「広島県研究課題評価マニュアル」を準用して事前評価を実施し、その結果を取りまとめた。

表1 評価対象研究課題一覧

番号	研究課題名	分野	センター名
1	廃石膏を活用したリン回収装置開発プロジェクト	環境	保健環境センター 西部工業技術センター
2	凍結含浸技術本格普及プロジェクト	食品・バイオ	食品工業技術センター
3	炭素繊維複合材料を用いた自動車部品製造のための実用化技術の開発	材料・加工	西部工業技術センター 東部工業技術センター

事前評価

開発しようとする技術の内容や手法を精査し、県として投資を行う価値の高いものを選定し、予算等の重点的配分を図るため、予算要求を行う事前の段階において、新規に立案された研究課題について、技術的な目標達成可能性や県民又は産業界の具体的なニーズの存否等を評価するもの

*「広島県研究課題評価マニュアル」より

(1) 評価基準

ワーキングスタッフによる評価は、各課題について、「県民ニーズ」、「技術的達成可能性」及び「事業効果」の三つの項目で5段階評価し、これらを点数換算して算出した平均点を「総合評価点」として表した。

「県民ニーズ」、「技術的達成可能性」、「事業効果」の評価点の意味は、下記のとおりである。各項目において、「A」は太字下線で示すように「標準的」であることを示す。

○ 県民ニーズ

SS (5点) 県民ニーズは極めて明確で大きい

S (4点) 県民ニーズは明確で大きい

A (3点) 県民ニーズは認められる

B (2点) 十分な県民ニーズは認められない

C (1点) 県民ニーズは認められない

○ 技術的達成可能性

SS (5点) 優位性、有効性、適切性が極めて高い

S (4点) 優位性、有効性、適切性が高い

A (3点) 優位性、有効性、適切性が認められる

B (2点) 十分な優位性、有効性、適切性は認められない

C (1点) 優位性、有効性、適切性は認められない

○ 事業効果

SS (5点) 事業効果の根拠が明確で、効果が極めて高い

S (4点) 事業効果の根拠が明確で、効果が高い

A (3点) 事業効果の根拠が明確で、効果が認められる

B (2点) 事業効果の根拠は明確だが、効果が十分高いとはいえない

C (1点) 事業効果の根拠が不明、あるいは効果が低い

(2) 総合判定

評価委員会としてワーキンググループの評価を基に、評価委員会の見識により、次の2区分への総合判定を実施した。

区 分
県として実施することが適切なもの
研究計画の見直し等再検討が必要なもの

2 評価結果

(1) ランキング

- 事前評価を実施した11課題について、ワーキングスタッフによる評価点を次のとおり数値化して算出した総合評価点に基づきランキングを行った。(表2)

SS⇒5, S⇒4, A⇒3, B⇒2, C⇒1

- 評価対象3課題の総合評価点は、全て3.0点以上であった。

また、全ての課題が、全評価項目(県民ニーズ, 技術的達成可能性, 事業効果)3.0点以上であった。

表2 総合評価点によるランキング

順位	番号	研究課題名	分野	センター名	県民ニーズ	技術的達成可能性	事業効果	総合
1	2	凍結含浸技術本格普及プロジェクト	食品・バイオ	食品工業技術センター	4.3	4.0	3.7	4.0
2	3	炭素繊維複合材料を用いた自動車部品製造のための実用化技術の開発	材料・加工	西部工業技術センター 東部工業技術センター	3.6	3.4	3.7	3.6
3	1	廃石膏を活用したリン回収装置開発プロジェクト	環境	保健環境センター 西部工業技術センター	3.7	3.2	3.5	3.5

(2) ポートフォリオ

- 事前評価を実施した11課題について、県民ニーズ、技術的達成可能性及び事業効果の3つの大項目の評価点に基づくポートフォリオを作成した。

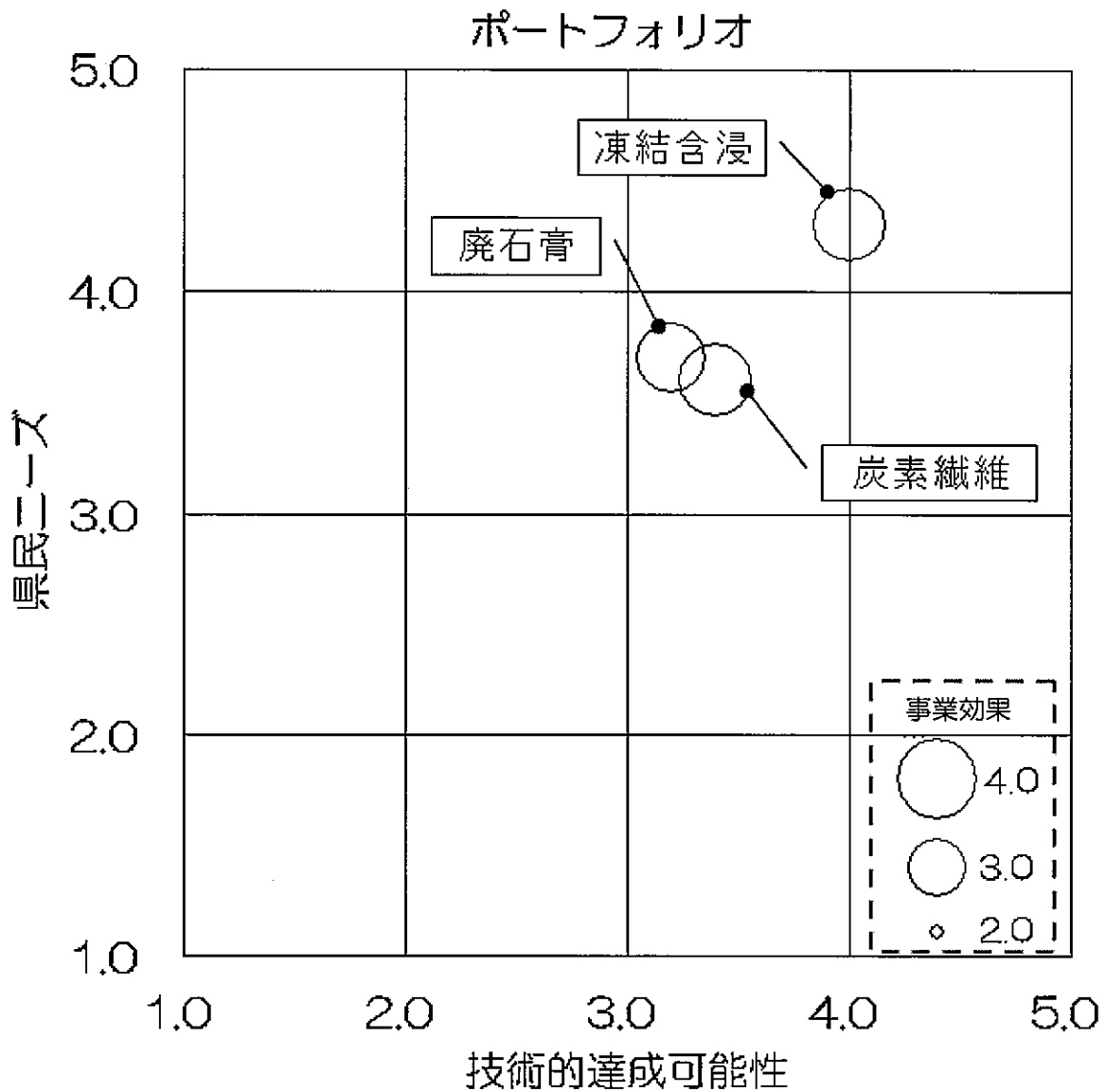


図 ポートフォリオ

3 評価委員会意見（総合判定）

- 判定の区分としては、下記の2区分とした。
- ワーキングスタッフによる評価点、ランキング、ポートフォリオ、委員の意見等を基に、評価委員会において、県が実施する必要性、早期の事業効果、経費に対する効果、地域性・独自性、横断性・融合性などを考慮し、分野間の調整も含めて総合的に判断することとし、次のとおりに区分けした。（表3、表4参照）
- 県におかれては、この分類に沿って実施していただきたい。

県として実施することが適切なもの
研究計画の見直し等、再検討が必要なもの

表3 県として実施することが適切なもの 3課題

課題番号	研究課題名	センター名
2	凍結含浸技術本格普及プロジェクト	食品工業技術センター
3	炭素繊維複合材料を用いた自動車部品製造のための実用化技術の開発	西部工業技術センター 東部工業技術センター
1	廃石膏を活用したリン回収装置開発プロジェクト	保健環境センター 西部工業技術センター

表4 研究計画の見直し等、再検討が必要なもの

該当なし
